

2023.03.03

第45回教育機関DXシンポ国立情報学研究所

Withコロナでの大学生と大学生協の現状

京都大学生生活協同組合
専務理事 國見伸行

本日の内容



1. 大学生協の現状
2. 大学生の様子
3. 大学生協の再生に向けて

1. 大学生協の現状

コロナ禍で負った傷を手当て中に襲った 物価高と燃料費の高騰

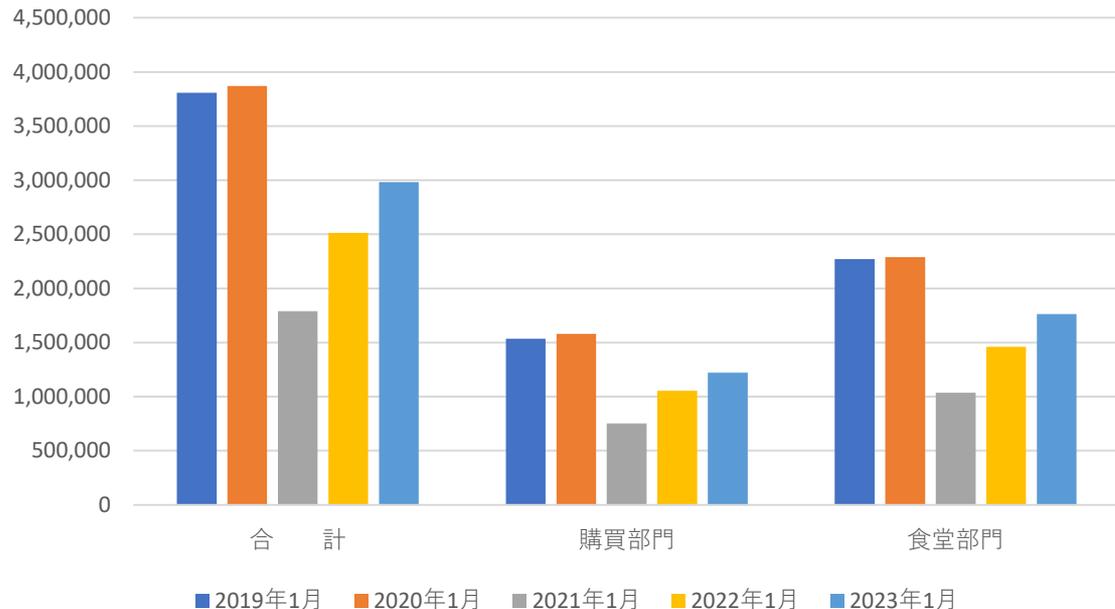


- 2022年1月14日の「教育機関DXシンポ」シンポで「大学生協の現状」をご報告
- 20年度は全国の大学生協が壊滅的な損失となる。(事業剰余100億円の赤字)
- 21年度は人員整理なども行い、何とか回復軌道へ向かい始めた。(事業剰余の赤字額が30億円まで縮小)
- 22年度は再生へ向けてのスタートの年だったが、厳しい状況

利用状況の回復



利用人数経年推移（3月～1月までの累計人数）



京大生協では、コロナ禍以前の80%の利用人数

22年度より原則対面講義で1年間が継続

利用はコロナ渦以前の86%まで回復

科目	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度見通	19年比
供給高	5,479,194	4,086,074	4,483,994	4,738,948	86.5%
供給剰余金	1,267,579	731,300	866,281	951,308	75.0%
事業総剰余金	1,406,134	855,717	1,000,967	1,094,783	77.9%
人件費合計	876,004	723,958	611,193	652,021	74.4%
水道光熱費	76,406	52,992	57,256	86,626	113.4%
事業連合委託費	108,838	109,796	109,758	112,511	103.4%
物件費合計	535,332	428,534	421,313	478,505	89.4%
事業経費合計	1,411,337	1,152,492	1,032,507	1,130,526	80.1%
事業剰余金	-5,204	-296,776	-31,541	-35,436	680.9%
事業外収益	55,418	116,437	64,711	5,992	10.8%
事業外費用	39,826	19,187	16,073	2,166	5.4%
経常剰余金	10,389	-199,526	17,097	-30,304	-291.7%

雇用調整助成金がなくなり(雇用調整をしていない)経常剰余金は減少

光熱費の上昇が経営を圧迫



科目	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度見通	19年比
供給高	5,479,194	4,086,074	4,483,994	4,738,948	86.5%
供給剰余金	1,267,579	731,300	866,281	951,308	75.0%
事業総剰余金	1,406,134	855,717	1,000,967	1,094,783	77.9%
人件費合計	876,004	723,958	611,193	652,021	74.4%
水道光熱費	76,406	52,992	57,256	86,626	113.4%
事業連合委託費	108,838	109,796	109,758	112,511	103.4%
物件費合計	535,332	428,534	421,313	478,505	89.4%
事業経費合計	1,411,337	1,152,492	1,032,507	1,130,526	80.1%
事業剰余金	-5,204	-296,776	-31,541	-35,436	680.9%
事業外収益	55,418	116,437	64,711	5,992	10.8%
事業外費用	39,826	19,187	16,073	2,166	5.4%
経常剰余金	10,389	-199,526	17,097	-30,304	-291.7%

光熱費が収入(事業総剰余金)の5%から8%に膨らみ経営を圧迫している。コロナ渦以前より利用は減少しているが光熱費は上昇。

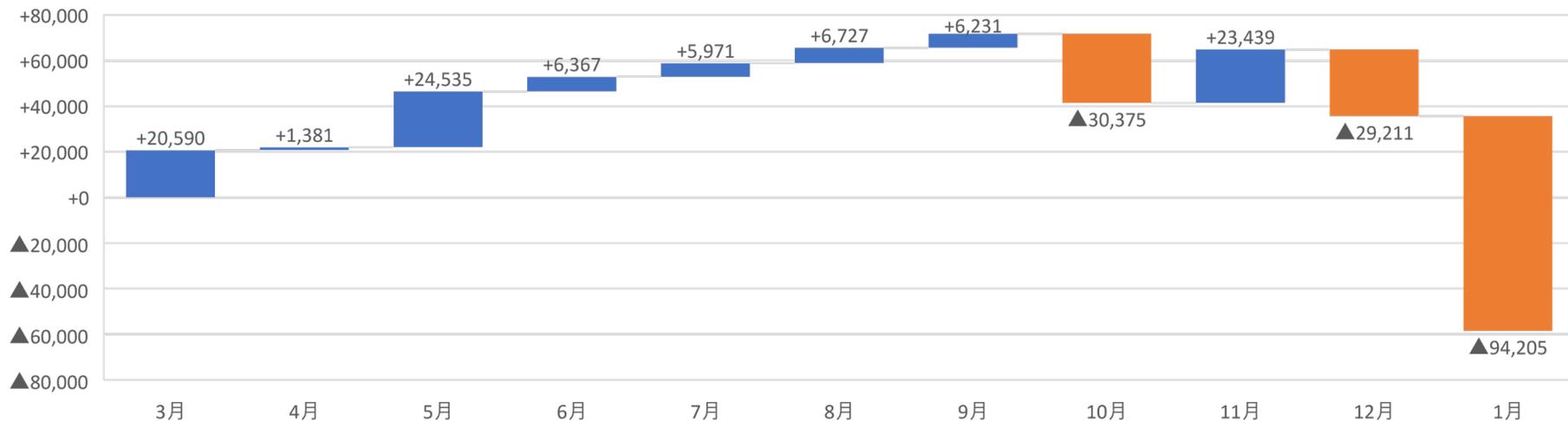
公費利用が急減少



公費供給 月別推移

単位: 千円

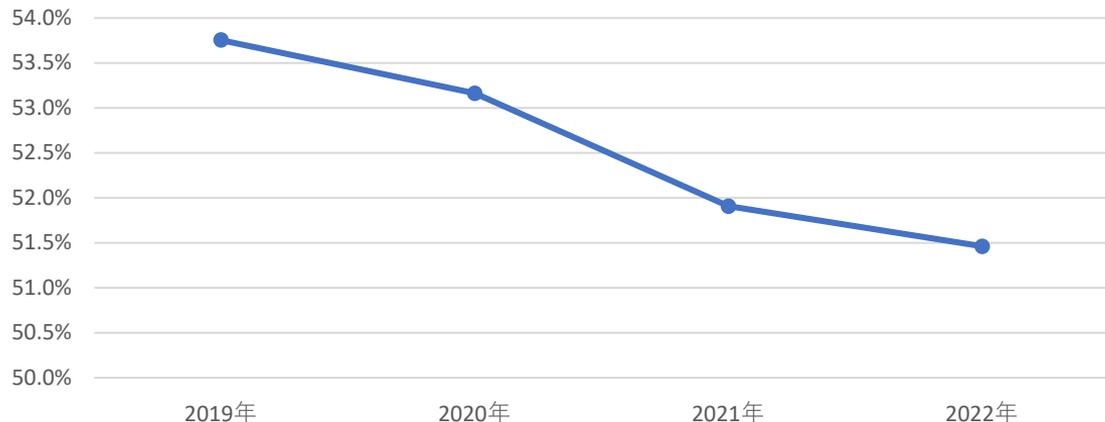
■ 増加 ■ 減少 ■ 合計



大学の研究費も光熱費上昇のため、減少し利用が急減

物価高が経営を圧迫

食堂部門 粗利益率の推移



物流費の上昇や原材料費の上昇により利益率が低下
やむを得ず3月より食堂価格を改定(平均5%)



原材料・原油・物流費等の価格高騰、円安の影響で
従来の価格を維持することが困難な状況です。

**2023年3月から
食堂価格改定を
致します。**

何卒、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

これからも、皆様に愛される
生協であり続けられるよう、
サービスの向上に努めてまいります。
今後とも変わらぬご愛顧をいただきますよう
お願い申し上げます。

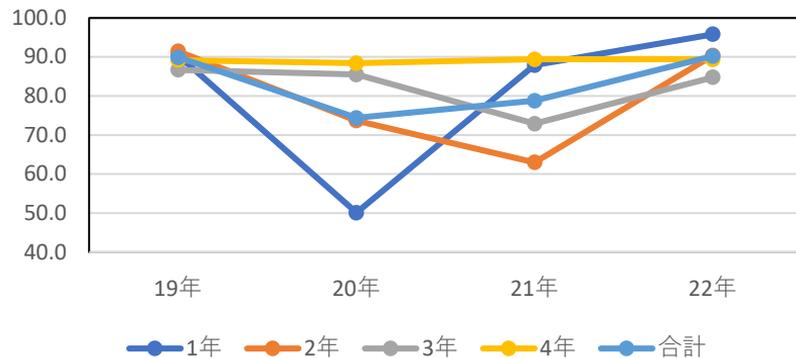
生協食堂

2. 大学生生活の変化

学生生活の充実度



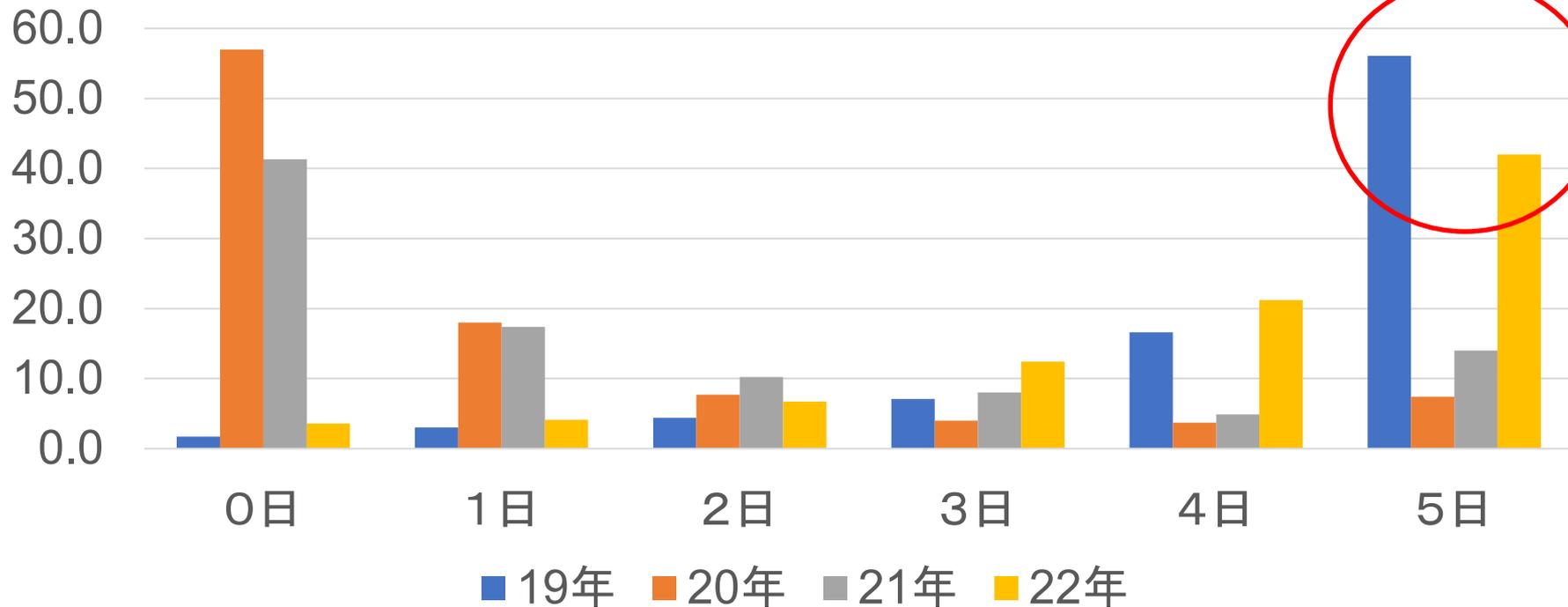
学生生活は充実している



	19年	20年	21年	22年
1年	90.3	50.1	87.9	95.8
2年	91.4	73.7	63.0	90.4
3年	86.7	85.5	72.9	84.8
4年	89.2	88.4	89.4	89.4
合計	89.9	74.4	78.8	90.2

コロナ渦以前の水準にほぼ回復した。入学時にコロナ禍になった現3年生も他学年よりは低いものの差は小さくなっている。

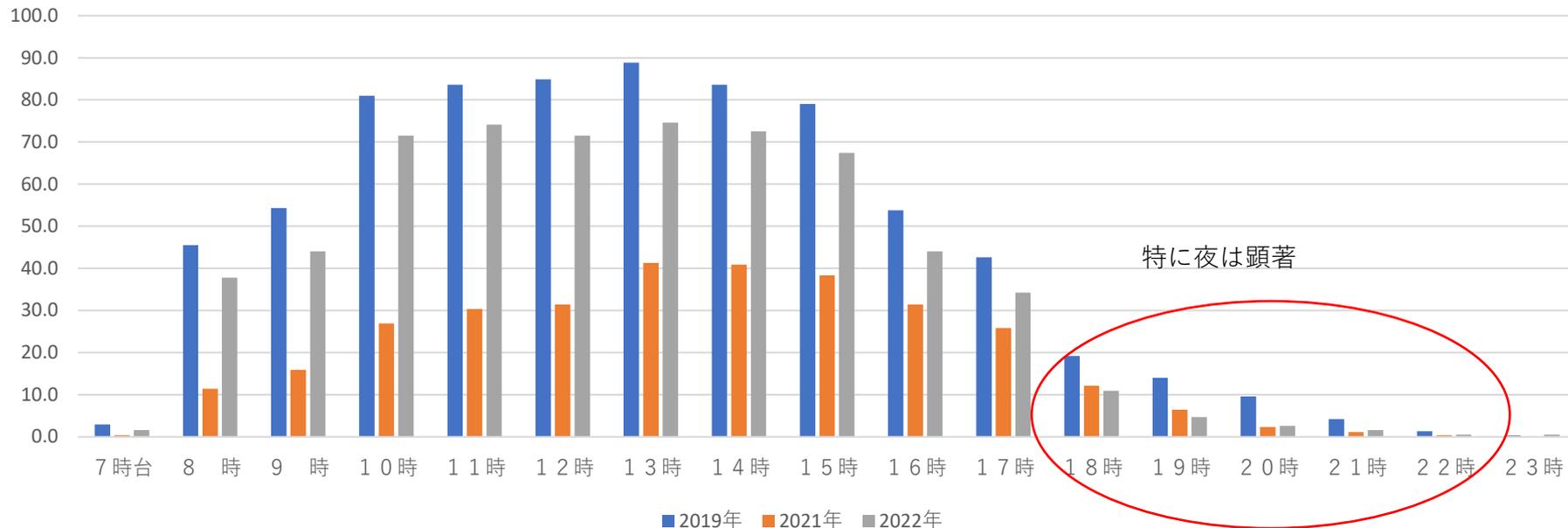
最近 1 週間の登校日数



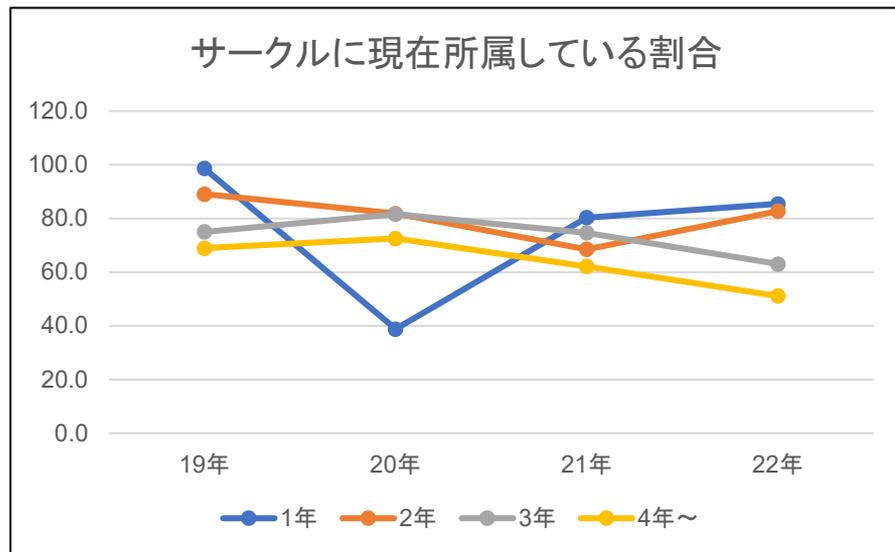
コロナ禍前（2019年）との比較



2021年（調査期間はオンライン講義）より当然増加している。19年より大きく減少
学内滞在率



サークル活動はまだ回復途上

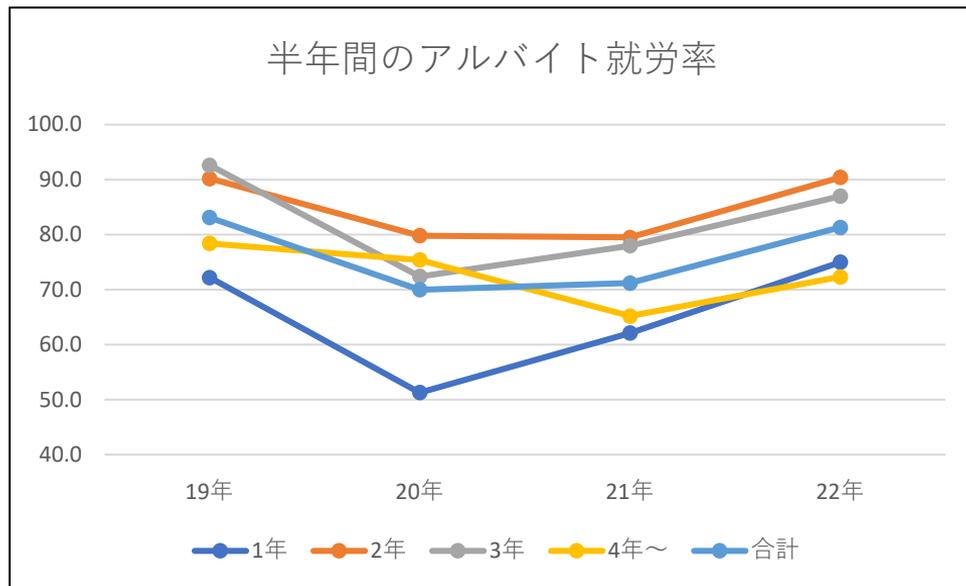


	19年	20年	21年	22年
1年	98.6	38.8	80.3	85.4
2年	89.0	81.8	68.5	82.7
3年	75.0	81.6	74.6	63.0
4年~	68.9	72.5	62.1	51.1
合計	82.8	69.3	71.2	71.0

サークルの所属は1, 2年生は回復しているがコロナ禍以前よりも低迷。コロナ禍でサークルがそもそも無くなっていることも。

現3年生は他の学年と比較してやはり所属率が低いままとなっている。

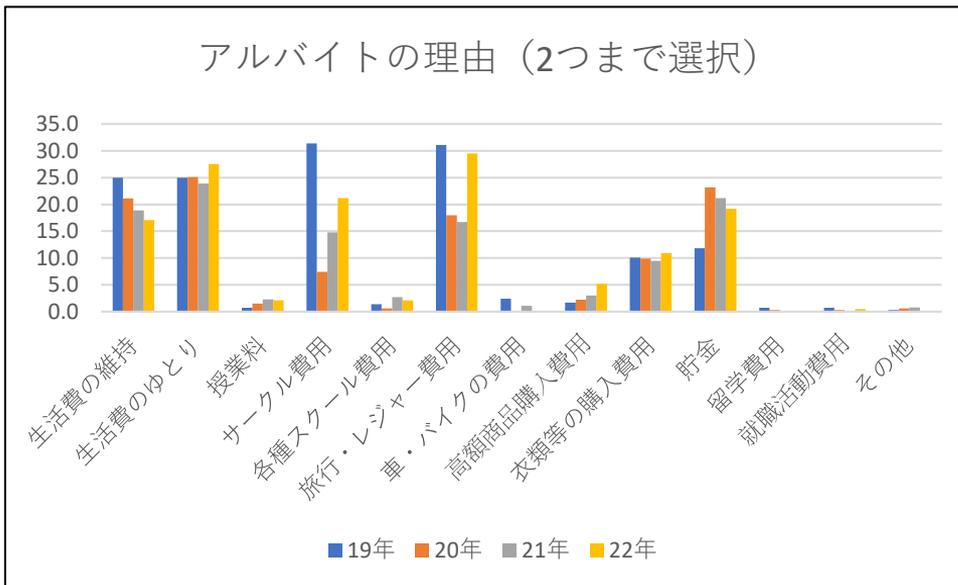
アルバイト経験率は上昇傾向



	19年	20年	21年	22年
1年	72.2	51.3	62.1	75.0
2年	90.2	79.8	79.5	90.4
3年	92.6	72.4	78.0	87.0
4年~	78.4	75.4	65.2	72.3
合計	83.1	70.0	71.2	81.3

アルバイト就労率は連続して上昇。コロナ以前と同程度まで回復。

アルバイトの理由



	19年	20年	21年	22年
生活費の維持	25.0	21.1	18.9	17.1
生活費のゆとり	25.0	25.1	23.9	27.5
授業料	0.7	1.5	2.3	2.1
サークル費用	31.4	7.4	14.8	21.2
各種スクール費用	1.4	0.6	2.7	2.1
旅行・レジャー費用	31.1	18.0	16.7	29.5
車・バイクの費用	2.4		1.1	
高額商品購入費用	1.7	2.2	3.0	5.2
衣類等の購入費用	10.1	9.9	9.5	10.9
貯金	11.8	23.2	21.2	19.2
留学費用	0.7	0.3		
就職活動費用	0.7	0.3		0.5
その他	0.3	0.6	0.8	

サークル費用、旅行・レジャー費用を目的とする人が増加

大学生協の再生に向けて



- 大学生協共済連合会を解散。事業をコープ共済連へ**譲渡**。**残余財産**を全国の各大学生協及び連合会組織へ**分配**。このことにより**緊急的**に財務基盤を安定させ、損益上の傷を治療する。
- 経営危機は、大学生協の余力を奪い、営業時間短縮や事業領域の縮小、非効率店舗の閉店などを招いた。そのことが組合員・大学からは理解はされつつも「**何のために生協は存在しているのか**」という問いになっている。

大学生協の再生に向けて



- 10年後も組合員・大学に支持される組織であるために、引き続き「**貢献**」できる分野は何か。
- 2023年度は、**経営回復**とともに事業を再生するスタート年度となる。
- **縮小再生産のサイクルから抜け出し、事業を拡大すること**に尽力する1年に。